

巻頭言

利潤を求めない公共的な活動を支援する社会へ

(特非) シビルNPO連携プラットフォーム 常務理事
東京都市大学工学部都市工学科 教授 皆川 勝



平成 27 年 11 月に仙台において開催したラウンドテーブルミーティングにおいては、「人・物・情報の連携ネットワークを構築・運用する」ことが CNCP の役割であることが改めて再確認された。すなわち、各地方においては集落単位、浜単位など弱小な組織形態の活動が多く、財政的にも、人的資源の面でも弱い。技術者は都市圏に集中しており、しかも大量退職の時期となっている。そのような中で、地域のために専門的知見を有する市民という立場で、組織あるいは個人が社会貢献をしようとする状況に対して、人・物・情報のネットワークをもって支援することが CNCP の存在意義であろう。

これまで「自治体インフラメンテナンス」を全国各地域の共通の課題として取り上げ、各自治体や関連組織のインタビューを重ねてきた結果見えてきたことは、地域に根差した活動を行っている NPO を主役とし、CNCP がそれを支援しつつ、各地域の課題に、専門的知見を有する市民という「民」の立場でかかわってゆくモデルが必要であるということである。これまで、ややもすると自治体が何を望んでいるかを受注者の目線で追いかけてきたきらいがあるが、そこからの脱却は必須である。

ドイツ出身のユダヤ人でアメリカ合衆国に亡命した哲学者、思想家であるハンナ・アーレントによる労働・仕事・活動の定義を図に示す。(小寺聡：もう一度読む山川倫理, 山川出版社より) 労働から仕事, 活動へと利益に縛られない, 人間にふさわしい自由な行動となってゆき, 活動は, 「公共的な場で社会に関する行動をすること」と定義されている。利潤を伴わない NPO の活動は, それ自体, 価値ある人間的行動なのである。社会的に意味のある行動は社会からサポートされることで, その貢献が継続性を持つことになる。我が国の文化は, 社会的活動の意味を理解し寄付をするということが日常的に行われるほどまだ成熟していないので, NPO の活動が財政的に厳しいものとならざるを得ないが, 例えば事業化推進部門が実施するマッチングサイト運営などにより, 継続性を担保する財政基盤を創造し, 継続的活動を展開するとともに, CNCP とその会員 NPO による「利潤を求めない公共的活動」が近い将来に多くの市民に財政的にも支援され, 継続的活動を展開できる社会へ進化するよう, CNCP としての「活動」を進めてゆこうではありませんか。

労働・仕事・活動の定義(ハンナ・アーレントによる)

